

## 十三湖の干拓事業について

成 田 慶 治

### 〔序〕

最近八郎潟の干拓が一躍close upされているが、本県でも十三湖の干拓が着々と進められている事を簡単に報告します。なお、この文は資料不足と分析が不十分ですので略報とし、今後の研究の緒としたいと思っていますので諸先輩からの御教示をお願い致します。

### 〔 1 〕 オ一期干拓事業

岩木川が十三湖に注ぐ河口付近はアシガヤの密生する湿原地帯だった。この湿原を耕地化しようというのがこのオ一期干拓事業である。すなわち実質的な十三湖面の干拓に入る前の前提事業であり後述する諸点からもわかる如く重要な事業であり、昭和32年(1948年)に着工された。国営(農林省・建設省)で強力に押し進めてきたので42年度で一期の事業は終了する。この事業は岩木川周辺の耕地開発ばかりでなく、同じような低湿地帯に造成された既耕地の排水改良も事業目的に含まれ、地区面積は6.800ha。うち新たに造成される耕地は水田1.244ha、畑538ha、であるが造成耕地は1.400haに上る右岸地区が事業の中心である。地区内を縦横に結ぶ用排水路と、その末端に設けられたポンプで用水—排水—用水と反復利用で水の価置を高めようというのがこの事業の特徴である。地区内には昭和27年(1952)、若宮地区に入植した十三湖干拓のように既に10a当たり平均9俵という高い収量を上げている所もある。すなわち十三湖近くの泥と砂の上に生えたアシガヤでおおわれた低湿原野に挑んで11年、中里町若宮開拓農協(竹内正一組合長、組合員50人)の此ところは稲穂波打つ水田が続き、入植当時の小さな住宅はモダンな住宅に建て替えられている。この一帯は、32年からの十三湖干拓建設事業が進められる以前、たび重なる岩木川や中小河川の氾濫と十三湖の水位上昇による逆流のため開発が遅れ、アシガヤの茂る原野にすぎなかったが十三湖囲ぎより堤の完成で乾田化が可能となり、28年に50戸が1戸2.4haの配分をうけて入植し、開田と改良に努めた結果、今では120haの水田から10a当たり8~10俵を収穫できるほどになっている。しかしこの間脱落者がなかったわけではなく、入植間もない34年頃にかけて9戸が当地を去った。今はモダンな住宅に住んでいる農家も「当時は引揚げて行こうかと何度も考えた」というほどである。がすぐまた新たに入植してくる者があって120haはそのまま耕され、努力は実り、既に自動車を持つ農家が出るまでになっている。バイクや耕耘機は全戸が持っている。また入植した頃の30数㎡の平屋住宅を引き払い、2階建てのモダン住宅を建てる農家も多く、現在12戸もある。以上若宮地区をみたが、十三湖に注ぐ山田川一帯(車力村)は所謂「腰切り田々、乳切り田々」と云われていたが、土地改良が代表

的に上りくいた富田地区では、昭和32年頃、故松橋恭太郎氏らの「土直し」運動が契機となって34年から富田土地改良区が中心となって暗渠排水工事が行われた。7年がかりで完了したこの事も、干拓事業に関連して成就された大きな成果である。

## 〔2〕 十三湖面における干拓

この干拓の進捗状況はオ1図の如くであるが、前記若宮の場合の入植とは違って増反である。3町村の利害が絡み合うところからの3者首脳の政治的談合により一応の分配をみたわけである。政府の増反希望者の基本的な条件として耕作距離が4km以内となっているが実際はそうではない者があり、市浦村役場の三上氏は「やはり町村的な配分を考えて農工作があるんだ」と云っているが、成程と思う。町村的な配分状況は図の如くであるが、同一町村でも例えば市浦村でもその内部では可成り地域的な差異があり増反農家の階層等にも変化があるわけで今後の分析を持ちたい。オ二期干拓事業計画図であるが、これは昭和44年度着工の予定であり、本年度(42年度)はその調査費に2000万円を計上して、①十三湖内外の土壌、②堤防予定地のボーリング、③日本海の潮位、④当地帯の米の反当収量、⑤骨材...等の調査をすることになっている。

## 〔3〕 問題点と対策

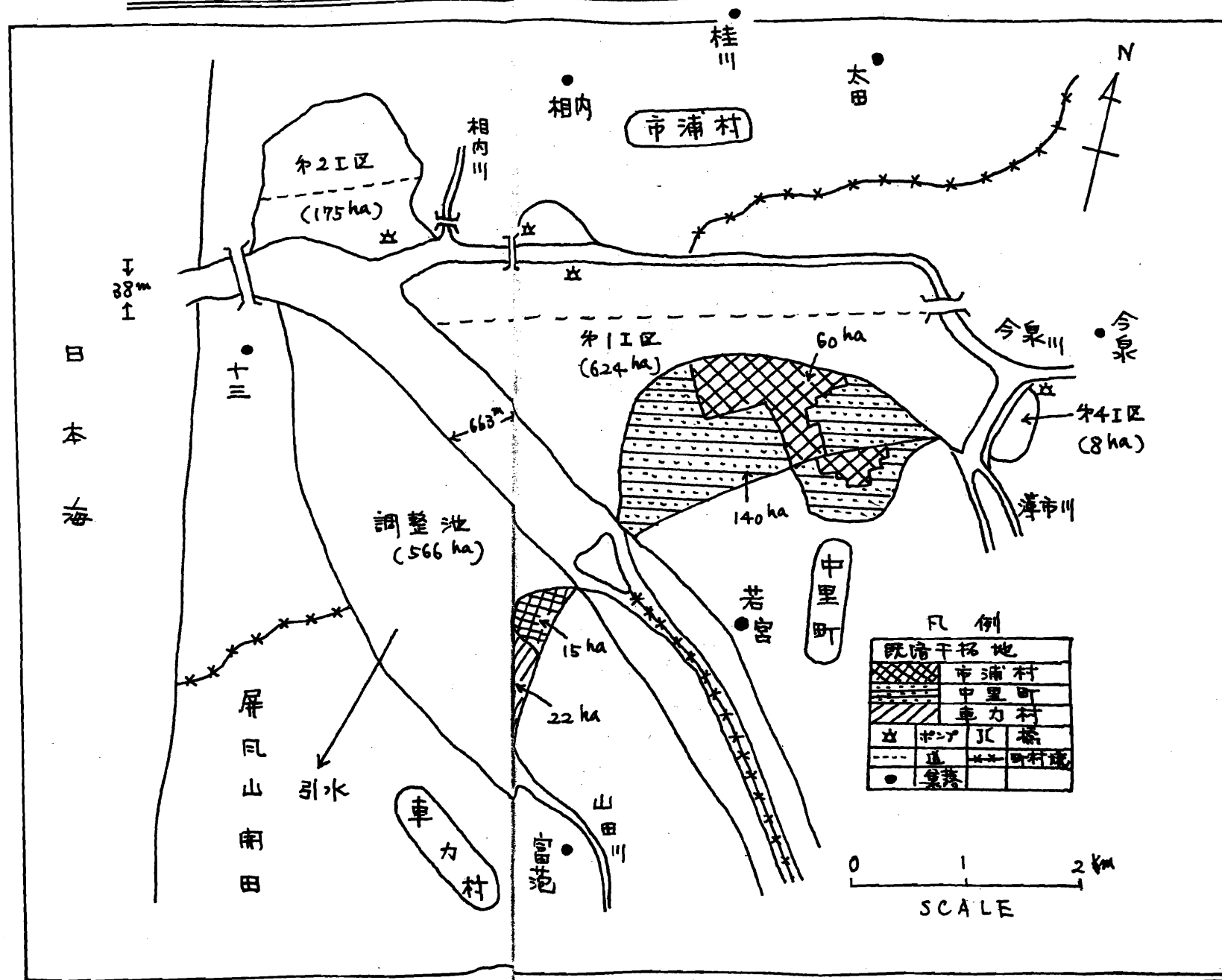
この干拓事業の問題点として次のような事が上げられると思う。県農林部真山次長の「国営事業という事で順調に進んできた事業だが、最大の難関は事業終了後、県の手に移される土地配分 - 現在は仮配分 - と負担金(畦畔なしで反当9万円)の徴収だ」という事と、更に一層困難を思わせるのにオ二期干拓事業における十三湖内面漁業との競合である。(表1表参照)

(表1) 十三湖における漁獲高および全漁獲高金額に対する割合

品名	年度 漁獲高	1962			1965		
		(Kg)	金額(千円)	百分比(%)	(Kg)	金額(千円)	百分比(%)
こい		663	43		268	29	
ふな		650	9		2712	20	
ほら		61,624	4,121		68,950	3,838	
蛸貝		778,800	1,446		969,693	9,700	
その他		142	2		291	21	
計		841,509	5,621	47	1,041,623	13,608	70
海面漁業 たのしい このしろ ちかいか その他							
計		41,882	6,326	53	40,903	5,787	30
総計		883,391	11,947	100	1,082,526	19,395	100

(註) 十三漁業協同組合の資料より作成

<図1> 地域概況  
十三湖干拓の現況および第2期計画概要



不振が続ける沿岸漁民の救世主的なク鯨貝ク等の補償の問題である。しかし現況図の市浦村  
 所有の増反農家戸数163戸中、漁業卓越村（オ2表）の十三部落で53戸を占め、漁業から  
 農業へ移行の気色を示しているのでこの計画図の如く調整池のク水クをク土地クの代りに車力  
 村にやって — この水が屏風山開田約200haの原動力となる。 — 自村のク土地ク入  
 手がうまくいけば問題も簡単だという心算りである。かかる案は、屏風山で6cm客土を施した  
 試験田で100mパイプで水源（ジュンサイ沼）から水を運んで試験したところ、見事10a  
 420kg（実際は1aに試験）の収量を上げて成功したところから、計画図の実行の可能性は  
 高いと云える。

（表2）市浦村の旧村別農家数 （昭和40年2月1日現在）

総 旧 村 数 別	専 兼 業 別			耕 地 広 狭 別								常 住 世 帯 人 員		
	専 業 (戸)	兼 業 一 種 二 種		ha <03	03<07	07<1	1<1.5	1.5<2	2/3	ha 3<	計	総 数 (人)	男	女
相内	47	90	206	43	81	70	49	51	37	12	343	1892	923	969
脇元	14	18	177	94	64	30	9	7	4	1	209	1220	589	631
十三	5	4	137	88	50	6	2	0	0	0	146	820	400	413
計	66	112	520	225	195	106	60	58	13	13	698	3932	1912	2018

（註）・市浦村役場、資料により作成

・十三のオ2種兼業は、漁主農従である。

#### 〔4〕 ま と め

以上十三漸干拓事業についてみてきたが、国・県・町村が一体となって農業近代化の基盤整  
 備に努力しているのが当地方であり、本県でも北に位置し、地理的諸条件は必ずしも恵まれて  
 いないが、この事業の完遂により、一層地域の躍進 — 例えば出稼ぎの減少 — が約束さ  
 れるだろう。